



友人との楽しい思い出



今からおよそ8年前、仲の良い友人と3人で思い切って海外旅行に行ったことが私の人生最大のイベントでした。
イギリス・ドイツ・フランス・スイス・ロンドンへ10日間の旅。
マンハッタンや山並みは大変美しく、スイスの山もとても綺麗でアニメの「アルプスの少女ハイジ」の景色の様でした。
フランスのルーブル美術館では、テレビで見ていた有名な「モナリザ」や「考える人」を実際に見ることが出来、とても感動しました。
また、友人と早朝に山の中を散歩に出かけた時、景色があまりにも綺麗でみとれてしまい道に迷って戻れず……。しかも、英語も何も分からない友人同士だったので、聞くことも出来ず、どうにかこうにか帰ったエピソードも(笑)
本当にあっという間の10日間でしたが、「あの時は良かったね」と今でも友人と思い出話をしています。



サンフランシスコ(遠洋航海)

昭和47年 私が神戸商船大学4年生の時に練習船「進徳丸」でサンフランシスコへ行った時の思い出です。



進徳丸

(1) 7月30日

7月16日に東京港を出港した練習船「進徳丸」は、本日正午、残航480海里(約880km)である。
午後は実習生(60人)が船内の大掃除を行った。
また金属類はピカール(金属を磨く粉)でピカピカに磨き上げた。大掃除終了後サンフランシスコ入港に備え、我々実習生に、一等航海士より停泊中の諸注意があった。

(2) 8月1日

いよいよサンフランシスコである。ここは予想された通り霧が深く、視界が1マイルである。8時25分、サンフランシスコ湾入口でパイロット(水先案内人)が乗船。しばらくすると金門橋(ゴールデン・ゲート・ブリッジ)が見えてきた。幸いにもこのころは霧も晴れて、高層ビルが林立するサンフランシスコの市街が開けてきた。



金門橋



入港、着岸後、私達6人(東京商船大学生3人・神戸商船大学生3人)が、さっそく船のタラップを駆け降りてアメリカ大陸の第1歩を記した。この時の気分は何とも言えない気分で、皆はいつの間にか笑い出し、笑いがなかなか止まらない状態であった。食事や買い物を済ませた後の「レッドガータ」というビアレストランに行き、大変楽しく過ごした。この店は、赤い縞の麦わら帽子を客全員がかぶり皆で、トニー・ベネットの『思い出のサンフランシスコ』を大合唱しながら楽しく過ごす所で、私達実習生も何の違和感もなくアメリカ人と肩を組み合って大合唱をした。本当に楽しくて忘れられない思い出となりました。

旬な魚の豆知識
鱈(サワラ)編



鱈はスズキ目科サバ科の魚で、古くから和食の重要な魚とされ冠婚葬祭などの席でも良く使われていたんですよ。とてもデリケートな魚で尻尾(おっぼ)を持って持ち上げるなどもってのほか!身が割れて使い物にならなくなります。
鱈は新鮮だと刺身にするると、とても美味しいですよ。皮を炙り、たたきでもバツグンです。
煮付けには向かず、塩焼き・西京焼き・ムニエルなどで食べられています。鱈は出世魚として知られ、サゴシ〜鱈と名前が変わります。
鱈は高級魚で、口にするのはサゴシが多いですね。
60cm以上の鱈を使い鱈寿司も大変美味しいですよ。

クイズ 鱈は



①白身

②赤身

どっちかな?

身の色で決めないでね☺



おすすめの1冊

『鏡の女』 内田康夫 著

ルポライター浅見光彦宛に届いた荷物。
送って来た人は、知った人ではない。段ボールに残ったボールペンの別の送り先から、浅見の兄警視庁刑事局長の力を借りながら、事件を解決していく推理小説です。
ルポライターだけあってフットワークも軽く、浅見の刑事解決力が自分の悩みもスッキリ解決していただけるといいなあと思いました。

月に2冊ほど、ぺあれんとで本を選んで借りて、自宅で読んでいます。本はユニットの桜と竹の間の本棚に沢山置いてありますので、興味がある方は是非読んでみてくださいね。



編集後記

無事にぺあれんと通所リハビリ『かわらばん第2号』が発行できました。私たちは、毎月1回金曜日に開催している懇談会のメンバーです。この会では、ぺあれんとへの意見・要望などを伝えたり、自立支援の事などを話し合っています。
今回は、このかわらばんの発行と4月22日に開催された「お楽しみ演芸会」を計画、準備してきました。
今後も、かわらばんの発行と何か楽しい企画を考えていきたいと思っておりますので、是非お楽しみに!

